

風土記の丘の花だより³¹⁰

今、そしてこれから見られる植物(2026年2月28日)

先日久しぶりにまとまった雨が降りました。人にも風土記の草木にも、待ちに待った雨でした。かなり春に近づいた感があります。花も少しずつ咲き始め、この花だよりにも彩りが戻ってきました。これからは、今までと逆で、「どの花を紹介しようかなあ」と悩む事が多くなります。



風土記の丘で一番早く咲き始めるサクラ、カンヒザクラが咲きました。春の訪れを知らせてくれる花です。ふつうサクラといえばソメイヨシノ、最近ではカワズザクラもよく知られるようになりましたが、このカンヒザクラはそれらのサクラとはかなりおもむきが異なります。下向きに咲き、パッと全開しません。色もサクラにしてはかなり濃い紅色です。風土記の丘では、これからいろいろなサクラが次々に咲き始めます。楽しみにもうしばらくお待ちください。



資料館の下をくぐり、階段を上り切ったところにブンゴウメの花が咲いています。でもこれをご覧になる頃、散ってしまっていたらごめんなさい。このウメは、ウメとアンズを交配して作られたそうです。花びらはすこしピンクがかっています。それに新梢は紅色です。この木は株元で2本に分かれていて、西の方はふつうのウメです。ですから、先にそのウメの花が咲いたとき「ブンゴウメが咲いた」と勘違いされる方が多いです。おそらく接ぎ木をした際の台木が成長して、こんな樹形になったものと想像しています。



春を代表する草花はたくさんありますが、このオオイヌノフグリはその筆頭かも知れませんね。陽だまりに咲く小さな青い花は春にはなくてはならない風物詩です。本家のイヌノフグリはめったに見られませんが、今、イヌノフグリといえばこれと思っている人も少なくありません。日本の風土に定着し、日本の花と思われていますが、ヨーロッパからやって来た帰化植物です。誰かが「草むらの宝石」と言ったとか、言わなかったとか、確かにその通りの美しさですね。



これも春にはなくてはならない野の花ですね。タンポポはタンポポでも、カンサイタンポポです。もう咲いているのを見つけました。これより大きめのセイヨウタンポポは季節を選ばず咲いていますが、カンサイタンポポはやっぱり春の花です。花の下が細く、シュツとしているのが特徴です。タンポポは風土記の丘ではこれまで、カンサイとセイヨウの2種類しか確認されていません。機会があれば、両者を見分けてみてください。分けることは、分かることです。 松下